SATSUMA×WORK

さつま×しごと

Vol.17

農家×小山 栄一郎

小山（おやま） 栄一郎（えいいちろう） さん（43）

柏原地区出身。県立農業大学校で花の栽培を学んだ後、東京の専門学校で園芸療法を学び、卒業後は講師を務める。2008年に帰郷し、実家の家業である農業を継ぐ。つるだ特産品販売所自慢館の副会長を務めるなど、地域の担い手の中心として活動している。

▼柏原地区で代々営まれる小山農園。冬にはゴボウ、春先から夏にかけてはカボチャやナス、ピーマンなど様々な野菜が収穫されます。農園を営むのは小山栄一郎さん。小山さんが栽培するカボチャ「栗五郎」は町のふるさと納税の返礼品の一つで、ホクホクとした食感と栗のような甘みが好評の人気商品です。

▼若い頃から農業に興味があった小山さんは県立農業大学校を卒業し、東京の専門学校に進学。２００８年、親が元気なうちに家を継ごうと決心し帰郷しました。「カボチャは放っておくと脇芽という不要な芽が成長し、実に十分な栄養が行きません。手作業で摘むので大変ですが、味や見た目が良くなります。他の野菜も同じで手間をかけることで商品価値の高い野菜ができます。結果は自分の努力次第なのでやりがいがあります」と農業の魅力を話します。

▼小山さんは農業の魅力を知ってもらうための活動にも力を入れています。その一つとして、学生時代に学んだ園芸療法の知識を活かした花の寄せ植え教室があります。「花は単なる商品ではありません。花を育てることで様々な刺激を受けて心身をリフレッシュできる効果があります。植物に触れあうこと自体に価値があります」と話します。

▼その他にも小山さんは、子どもたちが農業を体験できる取組を行っています。主なものでは、親子で農園の夏野菜を収穫し、採れた野菜を使ったカレー作り。昔ながらの方法で田植えから稲刈り、掛け干し、脱穀を行い、できあがった米を使ったおにぎり作りといったものがあります。「食との関連や自然とのふれあいなどを農業を通じて子どもたちに学んでほしいですね。農業はものづくりの原点です。農業からしか学べないことが数多くあると思います。若いうちに農業を体験し、これからの農業を支えていく人材が育ってほしいと思います。学校で国語や算数を勉強するのと同じように、農業を教育の一環として体験できる場を作っていくことが今後の目標です」と農業への熱い想いを語りました。

今の時期はナスとピーマンを収穫。みずみずしくて美味しそうです！